

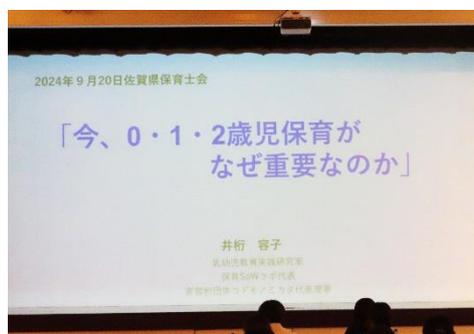
「令和6年度 乳児保育研修会」報告書

- 【期 日】令和6年9月20日（金）
【会 場】ロイヤルチェスター佐賀
【主 催】佐賀県保育会
【参加者数】136名（集合 56名 オンライン 80名）
【内 容】研修1 12:30～16:30

「今、0・1・2歳児保育がなぜ重要なのか」

講師 井桁容子氏

（乳幼児教育実践研究家 保育 SoW ラボ代表 非営利団体コドモノミカタ代表理事）



～ブレイクタイム（自己紹介も含めて、グループワーク）～

- [質問] 1、あなたの保育は
A. 今のままでいい
B. 変わらなければならないところがある
2、それは、どのようなところですか？

Bと答えた人…

・成長する人

↳自分を見つめることができる人

Aと答えた人…

・ベクトルを外に向ける人は成長が遅い

（園・同僚・保護者など）

一流の保育者とは？ **喜びを見つけること**

出会う人の数だけ学びがある

子ども・保護者…

○全国各地で聞こえてくる「年長児が幼い」 ➡ ・コロナ禍の影響？

大人のゆとりのなさから子どもが不安を感じて育ち今、我慢が爆発している

・人格の土台を育む012歳児期の保育が影響？

○泣いたらあやす？抱っこ?! あやす：あやかす=ごまかす

泣いている理由とのズレが生じ、泣く子どもが増えていく・・・不安だから、くつつく →諦めになる

泣いている理由を的確に洞察すること

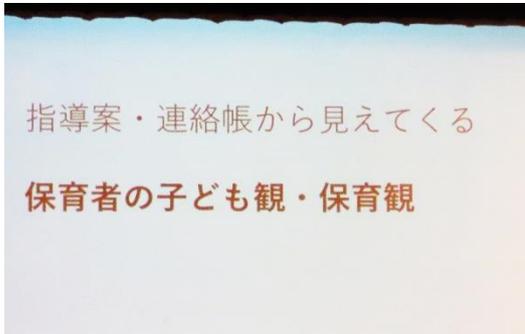
○指導案・連絡帳から見える 保育者の子ども観・保育観

子どもがあるものの中から**選ぶ力**を育てる環境であること！

群がる環境ではダメ！

自分を見つめる力を低下させる

○人間だけに残る力・・・感じ取る力



○アタッチメントとは

ネガティブな感情の時に、身体的な意味でも心理的な意味でも特定の人にくっつきたいと強く願う欲求、または、くっつきこうとする行動の傾向

安心

・・・自分から離れていく 豊かな学び・意欲が育つために重要

※まなざし、行動 全てアタッチメントである。

誤解されやすい⇒「愛情」「スキンシップ」ではない。

子どもを人として尊ぶこと

○これからの時代は、つながりの時代⇒ **違って**いるから**意味がある**

言われたことだけをする人を育てるのではない 思いがけないことが起きた時に、工夫する・乗り越える力を育てる

補い合うってどんなこと？ みんな**違って**いることが認められていることが大事

補い合うことで**みんなが育つ**

他者を信頼して、「助けて」と言える

レジリエンス (逆境から立ち上がる力)

○厳しさでは、心は育たない

1,2歳児期の「イヤイヤ期」 意見表明権：こどもの権利



何が嫌なのかを**知ろうとすることが大事**



知ろうとしてくれる人

そばにいる大人との関係性で変わる

○ベテランの多い園の落とし穴

- 慣れ合い
- 妥協
- 規範 (自分達にとって都合のいいルール)
- 役割の固定化
- 自己防衛
- 他者についての無関心

自己批判・謙虚さを保つために
アンラーンの必要性
対話 (リーダーの役割)
 ・科学知と実践知 (かん・コツ)
 ・伝え合う・聴き合う・語り合う関係

ベテランほど謙虚さは大切！

⇒子ども**理解が深まると**
保育の**質が上がる**

○子どもの権利とは 「やりたいことができる」
「してほしくないことはやめると言える」
「してほしいと言える」 と、子ども自身が感じていること

子どもにとって → 子どもの権利 子どものために → 自己満足

○生きる意欲・関わる意欲・学ぶ意欲は

0・1・2歳児期に 共感されて 安心の中で 体中で感じて 考えてやってみる

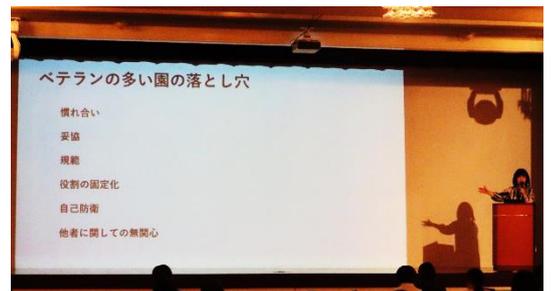
という体験の中で学んでいく

「生る」・・・その生命の中にある力を信頼すること

今だけを見るのではなく長い時間広く観る視点が大事

○保護者とのかかわりの基本的な考え方

- ・子どもの育ちや気づきをていねいに伝える
- ・日々のやり取りを誠実に行う
- ・相手を理解しようとする姿勢で向き合う **必ず理由がある**
- ・保護者の背景を知っておく 対話の中で何に困っているのかを考える
- ・正論を押し付けない **親はこうあるべきという目で見ない**



○ 「幸せ」 ・ 「不幸」 は伝染する

肯定的な表現が多い

否定的な表現が多い

保育者の声色、視線、仕草、表情、口調から伝わる感情

↳当事者だけでなく、周囲で見ている子ども達にも伝染する。

今を大切に 子どもも保護者も 自分自身も

育て急がず

頑張りすぎず

ありのままを大切に

日常の 何気ないことに 感動し感謝しながら 子どもとともに 学び続ける

しなやかで 温かいまなざしを持つ 保育者の存在

【感想】

井桁先生の言葉の一つひとつが心の中にスッと入り、子どもを愛おしく思う気持ちが大きくなったのと同時に、保育の専門家として子どもや保護者へ向けるまなざしについて改めて考える機会となり、とても貴重な時間でした。

“子どもがキラキラして「おはよう」と来てくれること それだけで十分”

私達保育者が子どもを一人の人として尊重し、しなやかで温かいまなざしを大切に、いつも子どもと一緒に心を動かし、そして常に学び続ける存在でありたいと思います。

(文責：志久慈音こども園 副島梓)